

○奈良教育長 枚方市教育委員会協議会を開会いたします。

まず、教育委員会の活動状況について事務局から報告をお願いします。

乾口教育政策課長。

○乾口教育政策課長 教育委員の活動についてご説明いたします。

画面の資料をご覧ください。

6月22日以降、7月22日までの活動内容としまして、活動日、活動内容、活動場所、活動出席委員名として記載しておきます。

以上、簡単ではございますが、教育委員の活動の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 続きまして、委員の活動について、所感の報告をしたいと思います。

それでは委員を代表して、今回は谷元委員から報告をお願いします。

○谷元委員 今日は、6月12日に行われました楠葉西中学校の研究授業と、7月21日火曜日、中央図書館で開催されました講演会「小惑星リュウグウからの玉手箱」の2点について報告したいと思います。

初めに、楠葉西中学校の研究授業についてです。

楠葉西中学校では、今年度、学識経験者の知見を活用した学力向上の取り組み研究指定校として、国立教育政策研究所総括研究官、千々布敏弥氏を招へいし、年間を通して指導していただくことになっています。

当日、千々布先生には、2時間目から4時間目の15クラス10教科の授業を参観していただきました。5時間目は研究授業を行う3年3組以外の生徒は下校させ、数学の「平方根」の研究授業が行われました。

研究テーマは、「4人班を活用した思考、探求型の共同学習の研究」でした。生徒は、「身の回りにあるものから平方根を見つけ、説明しよう。」という、本時のめあてを知り、配付されたA4判の用紙を折ったり、重ねたりしながら、縦の長さや横の長さの関係を調べ、平方根を見いだそうと考え、話し合っていました。指導者は生徒の考えを他の生徒に広げ、考えを深めさせようとヒントを与えながら目標に迫ろうとしていました。クラスの生徒の関係は非常に良く、4人のグループで話し合いが活発に行われました。50分の授業の大半はグループ活動であり、話し合い活動に設定されていました。

研究協議会は、これまで「どこが良かった」、「どこが悪かった」という評価を行う発言が中心でしたが、教育の専門家として成長していくために、「誰もが夢中になって学び合える授業研究」への転換を試み、協議が行われました。

研究協議の内容は、研究授業を評価し、助言するのではなく、用意された授業交流メモをもとに、子どもがどこで学んでいたか、どこでつまづいていたか、どこに学びの可能性があるのか、それらを事実に基づいて考察し、教室での学びの事実から学び合う授業研究を実現しようとしていました。そのため、先生方を5つのグループに分け、グループの生徒の様子や指導者の発問、指導者のヒントから生徒がどのように考え、活動していたかを観察し、話し合われました。

千々布先生は、参観された15クラス10教科の授業について、それぞれ指導・助言をされました。短時間の参観だったのですが、その内容は専門的かつ的確なものであったと感じました。千々

布先生が3月に学校訪問をされたときと比べ、ワークシートに工夫が見られたことや、グループワークが定着してきたことなど、改善されてきていることを幾つか挙げられました。

しかし、「生徒が隣の生徒に教える教え方がまだ雑であり、もっと丁寧に分かりやすく教えるよう指導することや、オープクエスチョンの割に知識レベルの内容が入っている。無駄な共有をしているのではないか」など、課題についても助言されました。

千々布先生にはトータルアドバイザーとして教育委員会事務局や学力向上担当者に対する研修の講師、研究指定校への学校訪問など、年間12回指導や支援をお願いしています。楠葉西中学校の田辺校長は、「千々布先生の指導により、先生たちの授業に対する意識が変わってきた。短期間で授業改善が進んできていることを実感している。本当にありがたい」と言われていました。1年間を通して千々布先生から指導を受け、授業改善がさらに進められることを期待しています。

次に、講演会「小惑星リュウグウからの玉手箱」についてです。

この講演会は平成30年度枚方市こども夢基金活用事業として、枚方市在住・在学の小学生から高校生までを対象に中央図書館で開催されました。100名以上の子どもたちや保護者が参加しました。会場には宇宙服や「はやぶさ2」の8分の1の大きさの模型、はやぶさが帰還したときの実物大のカプセルが展示されていました。

講師は宇宙航空研究開発機構 JAXA 宇宙科学研究所准教授、山田哲哉先生で、小惑星探査機「はやぶさ2」の開発に携わっている方です。山田先生は、はやぶさプロジェクトのカプセルの研究開発に携わり、2010年6月オーストラリアの砂漠で実際に自らの手で、小惑星イトカワからのカプセルを回収されました。小惑星からのサンプルリターン計画は、国際的にも例がなく、世界で初めて成功した快挙でした。

講演会の前半は、「命の始まりを探る旅」という内容で、「宇宙人はいるの?」「宇宙の始まりはいつ?」「どのようにして起こったのだろうか?」など、子どもたちが興味を引くような問い掛けで始まりました。2014年12月に打ち上げられた「はやぶさ2」は、今年6月27日に小惑星リュウグウに到着しました。山田先生は JAXA の方にお願ひし、「今日の夜中に送ってもらった」という最新の映像を子どもたちに見せてくださいました。それは7月19日「はやぶさ2」から送られてきた映像で、リュウグウには地球と同じように季節があることが初めて分かったことや、これからどのようなミッションが、どのような方法で行われるのかを映像で見せながら分かりやすく教えてくださいました。

講演の途中で質問の時間が設けられました。子どもたちからは、「はやぶさとはやぶさ2の違いは何ですか」とか「はやぶさ2はいくらぐらいしたのですか」とか「はやぶさが行方不明になっていたとき、はやぶさはどうなっていたのですか」など、たくさんの質問をしていました。

山田先生は、「なかなか答えるのに難しい。鋭い質問ですね」と感心されながら、子どもたちに丁寧に答えておられました。「はやぶさから通信が途絶えたときは、はやぶさが『助けて』と言っているようで、みんな切ない気持ちになった」と話されました。また「カプセルが地球に帰還することは、名古屋城から東京タワーに向けてナイフを投げ、そこにあるリンゴの皮をナイフでかすめさせるほどの難しさがある」と話されました。

講演の後、展示してあったカプセルを分解し、どのような仕組みでパラシュートが開くのかを

見せてくださいました。子どもだけでなく、大人も楽しめた講演会になり、「はやぶさ2」の今後のミッションがますます楽しみになりました。ほかにも、「傘袋ロケットをつくろう」や、7月28日からは、JAXAの協力による宇宙開発関係資料の展示会、宇宙服試着体験も行われる予定と聞いています。

このような夢のある企画を立案・開催していただいた中央図書館関係者の皆さま、ありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

黒田教育指導課長。

○黒田教育指導課長 それでは、案件1「平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について」ご説明いたします。

教育委員会協議会資料1ページをご覧ください。

1. 概要ですが、全国学力・学習状況調査結果については、本調査、実施要領を踏まえ、成果と課題を具体的に整理し、教育指導や学習状況の改善等に役立てるとともに、保護者に市民に分かりやすく伝えるために内容の公表を行うものです。

2. 経過及び趣旨についてですが、本市では平成28年度より保護者や市民、学校等にこれまで以上に分かりやすく伝える趣旨から、各教科における平均正答率の対全国における経年比較等について公表を行ってまいりました。

一方、本調査実施要領には、「個々の学校名を明らかにした公表については、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること」と定められているため、序列化や過度な競争が生じる恐れから、個々の学校名を明らかにした公表は行ってきておりません。

これまでの経過を踏まえ、本年度の結果公表についても、この方針を踏まえつつ、今後の教育施策や教育指導等に勘案させるとともに、保護者や市民、学校等にこれまで以上に分かりやすく伝える趣旨から、本市が学習指導要領の内容を全国水準で修得できているかを把握するための1つの指標として、各教科における平均正答率の対全国における経年比較等の公表を行うこといたします。

3. 公表の時期等ですが、調査結果提供後2カ月程度をめどにホームページ等で公表をいたします。

4. 参考資料としまして、平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領を添付しますので、ご参照ください。

公表の詳細につきましては、現在公表内容やレイアウト等を含め、担当課において進めているところでございます。

以上、案件1「全国学力・学習状況調査結果の公表について」の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件についてご意見、ご質問等がありますか。

神田委員。

○神田委員 要望ということになるかと思えます。

以前の会議でももちよったんですけども。5. 調査結果の取り扱いということで、6 ページに調査結果の活用というのがあるんですけども。ここのところで「各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれに役割と責任に応じて学校における取り組みなどに対して、必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取り組みを進めている」とこういうように書かれています。今年度公表された中で、各学校が授業改善等、学力向上に取り組んでいくことになると思いますけれども、今年度こういう学校への支援等で、できるものはできるだけ早く、また、来年度に向けて必要などころについては、来年度に向けて取り組んでいただくよう、一言お願いしておきたいと思います。

○奈良教育長 他に、ご意見、ご質問はありますか。

本件に対するご意見、ご質問はこの程度にとどめます。

続きまして、案件2について説明をお願いします。

黒田教育指導課長。

○黒田教育指導課長 続きまして、案件2「枚方市におけるコミュニティ・スクールについて」ご説明いたします。

教育委員会協議会資料23ページをご覧ください。

1. 概要ですが、枚方市教育振興基本計画の具体化に向け、保護者や地域住民の理解や協力を得ながら、各学校において特色のある教育活動を展開していくため、順次、小学校に枚方市におけるコミュニティ・スクールを設置し、学校運営に地域住民や保護者が参画する体制の構築に取り組めます。平成30年度から枚方市におけるコミュニティ・スクールを実施するにあたり実施校が決定しましたので、報告するものでございます。

2. 内容についてですが、実施校につきましては、平成30年度におきましては、枚方市立枚方第二小学校、香里小学校、氷室小学校、山之上小学校、川越小学校の5校になります。

3. 実施時期等についてですが、今年度におきましては、年度途中からの実施となるため、平成30年7月9日から平成31年3月31日となります。

以上、簡単ではございますが、「枚方市におけるコミュニティ・スクールについて」の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件についてご意見、ご質問等ありますか。

谷元委員。

○谷元委員 意見になりますけれども、先ほども言われましたように、今年度は年度途中の7月9日からということですので、ほぼ1学期間は会議が持てなかったと思います。この夏季休業中に、それぞれの5校が学校運営協議会の会議を持たれるんじゃないかなと思います。来年度の参考になるように、会議の内容について委員会として把握し、適切な支援をお願いしたいなと思っています。

○奈良教育長 他に、ご意見、ご質問ありますか。

本件に対するご意見、ご質問はこの程度にとどめます。

それでは、本日の公開とする協議会は以上となります。

協議会の案件3については、関係者のみとなりますので、それ以外の方は退席をお願いします。